

東日本旅客鉄道株式会社
執行役員東京建設プロジェクトマネジメントオフィス所長
谷 口 俊 一 様

J R 八高線に関する要望書

令和6年2月2日

瑞 穂 町

瑞穂町議会

J R 八高線に関する要望書

大寒の節、貴社におかれましてはますます御清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、J R 八高線は町内を通る唯一の軌道系交通機関として、町民の移動及び町の活性化に欠くことのできない極めて重要な役割を担っています。

統計では通勤・通学等により、瑞穂町には毎日約2万3千人の出入りがある中で、箱根ヶ崎駅利用者数は、コロナ禍以前の平成30年度には一日平均4千5百人に迫る人数となり、年々増加傾向にありました。

一方で、また、平成30年度、町民に対して行った、公共交通に関する意向調査結果では、運行本数が少ないこと、終発時間が早いこと、乗継ぎが不便なことなどが挙げられました。また、今後運行本数や駅が遠いことなどが改善された場合は、鉄道を利用したいという回答も多くありました。

このように、交通需要は大きいものの、多くの町民が八高線に不便を感じ、自家用車等を利用している現状です。

多摩都市モノレール箱根ヶ崎方面延伸については、令和4年10月に都市計画素案説明会が、令和5年12月には都市計画案及び環境影響評価案等の説明会が開催され、延伸に向け着々と都市計画等の手続きが進められています。この延伸の実現による八高線との接続は、交通利便性の向上に大きくつながります。

しかしながら、平成22年の車両基地及び拝島～箱根ヶ崎駅間の複線化計画を当面着手しないとの発表は、今後のまちづくりに甚大な影響を与えるものであり、町及び町議会としては容認することはできません。

また、車両基地建設予定用地は、現在、資材置き場として暫定的に利用されていますが、暫定使用が常時利用とならず、早期に本来の土地保有目的のために使用できるよう適正管理されるべきと考えます。

八高線の増発や複線化、新駅の設置、車両基地の建設等の利便性

の向上に町民の期待が高まっている中、町及び町議会では、現在推進している箱根ヶ崎駅西・殿ヶ谷の2地区に加え、箱根ヶ崎駅と金子駅のほぼ中間に位置する栗原地区の土地区画整理事業計画を進めるなど、沿線開発を積極的に進め、貴社の事業に引き続き協力してまいります。

一日も早い現計画の凍結解除と事業着手、更なる利便性の向上について、特段の御配慮を賜りますようお願いいたします。

令和6年2月2日

東京都西多摩郡瑞穂町

瑞穂町長 杉浦 裕之

瑞穂町議会

議長 山崎 栄

瑞穂町議会交通対策特別委員会

委員長 香取 幸子